賛助会員一覧 （順不同）

関東国際高等学校 東京都渋谷区本町3-2-2	**村山 サンドラー 先生** TEL：03-3376-2244	**自由学園 中等科・高等科** 東京都東久留米市学園町1-8-15	**更科 幸一 先生** TEL：042-422-3111
東洋高等学校 東京都千代田区三崎町1-4-16	**石井 和彦 先生** TEL：03-3291-3824	**京華学園** 東京都文京区白山5-6-6	**今野 巌 先生** TEL：03-3941-6493
桜丘中学・高等学校 東京都北区滝野川1-51-12	**高橋 知仁 先生** TEL：03-3910-6161	**武蔵野大学千代田高等学院** 東京都千代田区四番町11	**岡田 孝子 先生** TEL：03-3263-6551
光英VERITAS中学高等学校 千葉県松戸市秋山600	**川並 芳純 先生** TEL：047-392-8111	**目黒日大中学高等学校** 東京都目黒区目黒1-6-15	**天野 正貴 先生** TEL：03-3492-3388
麹町学園女子中高等学校 東京都千代田区麹町3-8	**上田 翼 先生** TEL：03-3263-3011	**共栄学園中学高等学校** 東京都葛飾区お花茶屋2-6-1	**松宮 博 先生** TEL：03-3601-7136
春日部共栄中学高等学校 埼玉県春日部市上大増新田213	**馬﨑 郁朗 先生** TEL：048-737-7611	**中村中学・高等学校** 東京都江東区清澄2-3-15	**富田 義道 先生** TEL：03-3642-8041
東京立正中学高等学校 東京都杉並区堀ノ内2-41-15	**小泉 岳司 先生** TEL：03-3312-1111	**文教大学付属中学高等学校** 東京都品川区旗の台3-2-17	**神戸 航 先生** TEL：03-3783-5511
八雲学園中学高等学校 東京都目黒区八雲2-14-1	**横山 孝治 先生** TEL：03-3717-1196	**金沢工業大学国際高等専門学校** 石川県金沢市久安2-270	**志鷹 英男 先生** TEL：076-248-1080
東洋大学京北中学高等学校 東京都文京区白山2-36-5	**井出 秀己 先生** TEL：03-3816-6211	**(株)私塾界** 東京都豊島区東池袋1-39-1三善ビル3F	**山田 未知之 様** TEL：03-3987-0838
大森学園高等学校 東京都大田区大森西3-2-12	**三浦 圭 先生** TEL：03-3762-7336	**デザインオフィススズキ** 千葉県柏市柏687-6	**鈴木 学 様** TEL：04-7164-8276
東京成徳大学中学高等学校 東京都北区豊島8-26-9	**大矢 忠和 先生** TEL：03-3911-7109	**(株)POPER** 東京都中央区日本橋茅場町1-13-21-4F	**栗原 慎吾 様** TEL：03-6265-0951
日本工業大学駒場中学高等学校 東京都目黒区駒場1-35-32	**河村 文夫 先生** TEL：03-3467-2130	**(株)塾と教育社** 東京都千代田区飯田橋4-4-8-310	**加藤 麻由美 様** TEL：03-6265-6855
青稜中学高等学校 東京都品川区二葉1-6-6	**伊東 充 先生** TEL：03-3782-1502	**(株)ブックモールジャパン** 埼玉県戸田市上戸田4-2-33 日教販戸田センター	**撹上 聡 様** TEL：048-447-7457
東京女子学園中学高等学校 東京都港区芝4-1-30	**鶴内 小百合 先生** TEL：03-3451-0912	**教育開発出版(株)** 東京都杉並区下高井戸1-39-12	**糸井 幸男 様** TEL：03-3304-5291
駒込中学高等学校 東京都文京区千駄木5-6-25	**河合 孝允 先生** TEL：03-3828-4141	**(株)クロノクリエイト** 東京都渋谷区神宮前5-52-2-2F	**添田 大亮 様** TEL：03-5468-6986
愛国中学高等学校 東京都江戸川区西小岩5-7-1	**高橋 英夫 先生** TEL：03-3658-4111	**(株)声の教育社** 東京都新宿区新小川町8-15	**中村 千尋 様** TEL：03-5261-5061
安田学園中・高等学校 東京都墨田区横網2-2-25	**藤村 高史 先生** TEL：03-3624-2666	**アロー教育総合研究所** 東京都千代田区神田小川町3-8-5F	**古川 貴央 様** TEL：03-3259-2851
日本音楽高等学校 東京都品川区豊町2-16-12	**伊庭 崇 先生** TEL：03-3786-1711	**(株)サンケイワーク** 大阪府大阪市福島区玉川2-8-4-3F	**橋本 光幸 様** TEL：06-6445-0688
立正大学付属立正中学高等学校 東京都大田区西馬込1-5-1	**今田 正利 先生** TEL：03-6303-7683	**(株)インフィニティライフ** 東京都新宿区四谷4-3 エクシーナ四谷1001	**高木 直人 様** TEL：03-6380-5894
上野学園中学校・高等学校 東京都台東区東上野4-24-12	**川村 翼 先生** TEL：03-3847-2201	**モノグサ(株)** 東京都文京区後楽2-3-21 住友不動産飯田橋ビル5階	**中村 大志 様** TEL：090-1657-8610
二松学舎大学付属高等学校 東京都千代田区九段南2-1-32	**車田 忠継 先生** TEL：03-3261-9288	**デジタルハリウッド(株)** 東京都千代田神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティアカデミア4F	**西 彩音 様** TEL：03-5289-9267

私塾ネットセンター広報 ｜ 発行：田中宏道、編集長：中村直人、制作：谷村志厚、鈴木 学

All Nippon Shijuku Educational Network - Official News Magazine Since 2002

全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

第77号
（2022年5月号）

デイジー（キク科ヒナギク属・地中海沿岸原産）

全日本私塾教育ネットワーク
理事長：田中 宏道（LAPIS鎌ヶ谷） TEL：047-443-1010
センター事務局：長江 広紀（英数学院） TEL：044-788-7556
〒211-0044 神奈川県川崎市中原区 新城5-9-25 英数学院内
https://shijuku.net

理事長コラム

田中 宏道（LAPIS鎌ヶ谷・千葉県）

仲野（十和田）さん！おつかれさまでした。6年間も理事長を務めてくださり心より感謝申し上げます。

私はつい自分でやってしまう性分で、大きな組織のリーダーとして不向きです。しかし、たいへんお世話になっている仲野さんのご依頼、理事長の引継ぎに困り果てていた仲野さんを見ていたら断りきれませんでした。

リーダーとして力不足の私ではありますが、私塾ネットがみなさまのお役に立つチームとなるように役職を努めてまいります。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

私塾ネットの役割、それは学びのネットワークだと考えています。ある先生からは「思いっきりやりたいことやればいいじゃないですか！どうせ死んじゃうんだから(^^)/」と励ましのお言葉をいただきました。この「どうせ死んじゃうんだから」は心にぐっと響きました。どうせ死んじゃうんだから精一杯やらせていただこう。そう思えたのです。

さっそく4月下旬に、「第1回　きままな授業勉強会」を完全オンラインで開催しました。まずは1年間、自分の遺書のつもりで頑張ります。次回は5月26日（木）です。

5月29日（日）には栃木・佐野で開倫塾さん主催の全国模擬授業大会。勉強になります。ぜひご参加ください。10月は野田塾さん主催で名古屋でも開催されます。

最後に、神奈川のSTEPさんに教えていただいた保護者様宛メールが4年目に入りました。ご参考になれば嬉しいです。

4月12日（火）保護者さま宛メール 第387号

＜大人の歴史講座　倭塾＞

二宮金次郎（尊徳）さんについて学びました。身長180cm、体重80kgですって。そのとき11代将軍家斉の時代、日本人の平均身長は男150cm、女140cmです。大男だったんですね。質に入れられた田畑を15歳からすべて買い戻し、その成果が認められ栃木の真岡で農業指導者となります。でもうまくいかなすぎて逃げ出します。千葉の成田山に。成田山では3週間の断食修行。その後疲弊していた村を豊かな村にしました。

金次郎さんがこもって水行した場所が今も成田山に残っています。ぜひのぞいてみてください。うなぎを食べに行くついでにでも(^^)/ちなみに鰻は、店頭で鰻をさばいている「川豊」さんも有名ですが、そのお隣の「菊屋」さんでは鯉のあらいなどほかの川魚料理も食べられます。また「駿河屋」さんはお客様がいらっしゃってから鰻を焼くお店で、通な方は一番うまいとおっしゃいます。（中略）

倭塾の小名木善行先生の新刊が出ました。「子供たちに伝えたい　美しき日本人たち」おもしろくためになる本ですよ。（以下略）

4月18日(金)保護者さま宛メール 第388号

＜横浜 海上保安庁での学び＞

（知床半島、助かってほしかった…）尖閣諸島では中国の不法侵入（密入国）を防いでいます。中国船が島に近づかないように、海が大荒れの時も島と中国船の間に入って24時間中国船の横にぴったり寄り添う。自衛隊が出ると外国からも軍隊が出ます。一触即発です。警察の海上保安庁が行けば向こうも警察しか来ない。相手は軍事行動をとりにくくなるそうです。台湾・韓国のコーストガードとは非常に仲が良く、現場の情報交換がスムースだそうです。

警察、消防、自衛隊、海上保安庁、命を張って我々を守ってくださっている存在。そんな方々がいらっしゃることに感謝、感謝の日曜日でした。

海上保安庁職員になるためには、京都舞鶴の海上保安学校または広島呉の海上保安大学校に進めばよいそうです。給料をもらいながら学べます。

＜中学1年生＞

環境に慣れずにまだ緊張が続いていますね。塾も夜になりご心配かと思います。お家に帰ったらぐったりかもしれませんが塾ではみんな元気です。元気にしゃべり、元気に勉強しています。

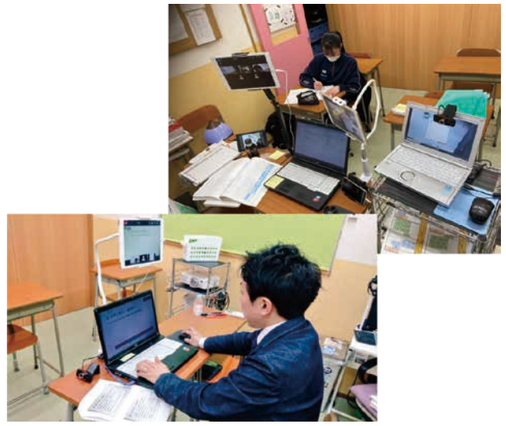
忙しい中学生の始まりです。ちょっとしたすきま時間にやらなければならないことを終わらせてほしい。でもまだ習慣づいていません。英単語テスト。塾に来たらすぐに練習をして合格してほしいです。楽しそうに休み時間を過ごしてテストは不合格。別の日に来てテストしなければなりません。一番心配なのは、なんだかんだと別の日にも来ない生徒。身につかずに時間が過ぎていきます。そのうちにお電話しますね。

反面、別の日に絶対に来たくないと練習をしっかりやる生徒。成績がぐんぐん上がります。そうなんです。要は、頭の良さではなく日頃の積み重ねなんですね。

エリア通信

エリア東北代表　佐々木 康
（やまばと学習館・青森県）

4月より安藤先生に代わって代表を務めさせていただくことになりました、やまばと学習館の佐々木康です。渡部先生、安藤先生のあとに私のような若輩者がエリア代表という役を務めてよいのか不安でしたが、このような機会をいただいたということで、積極的に学びながら、そして何よりも楽しみながら、代表職を務めていきたいと思います。副代表には個別指導Axis観光通り校の柿崎先生、広報にはあおば伸学塾の村戸先生、会計は安藤先生に引き続きお願いをしまして、新しい面々でのエリア東北の活動をスタートさせます。全国の皆様、どうぞよろしくお願い致します。



さて、令和4年度の新学期がスタートしましたが、新型コロナウイルスの感染状況がなかなか落ち着かない本県。昨冬の大雪も相まって、やっと春の訪れかと待ち遠しくしていたのですが、まだまだ油断のできない日々を送っております。特に冬の雪については本当に大変でした。毎日の雪かき、雪庇（せっぴ）落としや、屋根の雪下ろし。大雪と格闘してからようやっと出勤です。さらに電車が雪害によって運行できなくなり、授業前に学生講師を迎えに行き、挙句の果てには家のカーポートが雪で押しつぶされて全壊と、これまでにない被害を被った厳しい冬でした。

厳しい冬を乗り切らなければならない青森県の受験ですが、今年度、当館は過去最高人数の最上位高合格者を輩出すことができました。コロナ禍の為、中3生は分散登校で模擬試験についても自宅受験となるなど苦労ばかりかけてきましたが、生徒たち全員が我々講師たちを信じ、我々の指導によく付いてきてくれたことに感謝の気持ちで一杯でした。

4月中旬に本県の桜も満開を迎えました。これまで様々な取り組みを行ってきましたが、withコロナの時代にあった指導がこれから必要であると考えております。オンラインによる指導や説明会、面談などは大きな経験値となりました。対面での指導とどのように組み合わせて、より子どもたちが安全・安心に学べる環境をつくることが出来るか考えたいと思います。研修会などを通じて様々なことを学びたいと思いますので、今後共、どうぞよろしくお願いいたします。

エリア中国代表　西本雅明
（パワーゼミ西本・広島県）

先日，呉市の塾仲間が主催する「県教委入試説明会」へ参加しました。広島県は来春高校入試の大改革初年度です。5教科一発勝負で，内申点による推薦入試は無くなります。大学入試が多様化傾向の中，広島県の高校入試は学力勝負に変更という，時代に逆行しているような改革になります。言い訳に，面接が課されるようです。ですから，来年2月は「面接指導をしてくれ」と，生徒たちがワイワイ言ってくるんだろうなぁと思い，今から憂鬱です。調査書の中には9教科の5段階評価が書きこまれますが，それ以外は書き込む欄がなく，生徒会活動やクラブ活動，検定の取得級などを書き込む欄ももちろんありません。地元のトップ校である県立福山誠之館高校は数学（50点満点）を6倍，英語（50点満点）を4倍，国語（50点満点）を2倍，理科と社会は（各50点満点），英語と数学には自校作成問題（100点満点）を加えて合計800点。内申点は100点です。先日，誠之館高校の校長先生にお会いしてお聞きしたのですが，「実力のある生徒に来てほしいという，受験生たちに対するメッセージだ。」と，おっしゃいました。塾の対応としては，5月に「誠之館セミナー」という講座を開催します。2部構成で，1部では校長先生にお話を頂き，自校作成問題作問担当の先生方からアドバイスを頂きます。第2部では過去問類似問題にチャレンジし，誠之館合格に向けて受験生たちの気持ちを高めようという講座です。

連休明けには，近隣の私学をお借りして，パワーゼミ全校舎合同の「英検・漢検・数検対策講座」を行います。内申書に検定の取得級等は一切記入しないことを，保護者の皆様もご存じのはずですが，将来を見越して英検漢検の受験熱は相変わらず高いようです。

6月には「進学情報フェスタ」を開催します。公立私立合わせて18校にご参加をいただき，生徒と保護者がそれぞれの志望校ブースで学校の情報を仕入れるというイベントです。

6月10日には「ひろしま高校ナビ」を発行します。広島県内の公立私立全校の情報を記載した受験情報誌です。広島の学習塾協同組合が発行元です。組合員が4月5月は広島県内の学校を駆け回り情報を収集します。おかげで3月4月は愛車の走行距離がそれぞれ3000キロを超え3年目の車検前に走行距離6万キロを超えてしまいました。

毎日，慌ただしく生きていますが，それでもやっぱり桜は見たくて，合間を縫って県北の「千鳥別尺のヤマザクラ」を見てきました。広島県内第一位の巨樹です。樹高27メートルあります。胸高幹囲4.6mで，4.5mを超えるものは国指定8件しかないそうです。桜の近くに人がいるのですが分るでしょうか。

エリア四国代表　小野 昭
（小野塾・香川県）

冒頭、5月12日（木）丸亀オークラホテルにて私塾ネット四国の総会が行われます。そこで本年度より四国の代表を仰せつかる予定でございます。湯口先生、寺島先生、近藤先生に続きまして4代目となります。四国は、名誉会員の楠山先生を含め19名の会員です。全国の皆様と様々な交流ができますようにお世話をさせていただく所存でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、5月に入り生徒募集の方はいかがでしょうか。今年はスタートが良くないように思います。1学期の中間テスト、期末テストに向けてまだまだ気を緩めずに募集にも気を配っていかなくてはならないと思います。そこで、4月17日の全国研修でも発表させていただきましたが、小学生を集める大切さについて報告致します。私の塾では、小学生に対して算数・国語・英語・そろばん・硬筆の5つのメニューがあります。このメニューの豊富さをアピールして募集につなげています。保護者は、塾以外にもスポーツ系の習い事などを含めて送迎の段取りが大変です。ですから入校面接時に、ここなら「色々学べて便利ですよ」という事をアピールしています。具体的には、各50分授業で、4時スタート、5時スタート、6時スタートがあります。つまり1日で3つのメニューを受講することが出来るようにしています。この結果比較的、小学生の募集がうまくいっています。但し、課題もあります。小6の生徒さんを、スムーズに中1に上がってもらうことができるかです。そろばんだけとか、硬筆だけの生徒さんはなかなか思うように中1講座を受講してくれません。そこのところのシナジー効果をいかに発揮できるかが課題です。もう一つ課題があります。活気のある小学部は、落ち着いてきちんと指導しないとバタバタした印象になって一度退塾してしまうとシナジーどころか逆効果になってしまうところです。子育て経験のある年配パート女性と、自塾の正社員が一緒になって頑張っているところであります。

次に、本年度の香川県高校入試について少しだけ報告致します。特徴は2つ。1つ目は公立高校の入学定員が25名増加したこと。2つ目は、新型コロナウイルス感染による追試験が昨年度より設けられ、さらに今年は当該生徒が濃厚接触者の場合は追試験ではなく、別室での本試験が実施されました。

全国の皆様とも、お顔を合わせておしゃべりができるようになる日が一日も早く来ることを祈りつつ四国のエリア報告とさせていただきます。

寄稿

危機に対応できる教育とは？

教育評論家 小宮山 博仁
（私塾ネット名誉会員）

2020年1月から始まったコロナ感染拡大の危機は現在（4月28日）も収まる様子がない。また、昨年末からじわじわと円安になってきたが、アメリカ経済の復活により物価が高くなりインフレが生じたためだと言われている。原油は1バーレル70米ドル台になり、日本の経済に打撃を与えると言われていた。円安による輸入品価格の上昇と原油高によるダブルパンチで、日本の経済は悪化するのではと、懸念されていた。

コロナ禍で2020年のGDPの減少は-4.6%になり、リーマンショックを超える最大の下落であった。2021年度はプラスの成長率となると思われるが、アメリカやEUと比べると力強さは感じられない。約4か月前は、このような社会状況であった。

コロナ禍と経済不況への懸念の最中に、ロシアのウクライナ侵攻が突如2月24日に始まってしまった。日本の経済が1990年から30年間、徐々にだが弱体化してきたことは、「平成時代」（吉見俊哉）及び「平成経済衰退の本質」（金子勝）で白日の下にさらされていた。この7年間、日銀は金融緩和の政策を続けてきたが、一向に企業投資や個人消費は増加しない状況が続いていた時期での「戦争勃発」である。

日本の食糧自給率は38%（2019年度・カロリーベース）と、アメリカは言うまでもないが、イギリス（68%）やイタリア（59%）よりもかなり低い。産業の発展、維持に欠かせない一次エネルギー（化石燃料・水力・原子力・地熱・太陽光など）自給率は11.8%（2018年）である。化石燃料（石炭・石油・天然ガス）に限ればわずか3.2%である。

このような資源弱小国家は、世界的規模の有事の際には大変リスクが高いということは、前々から言われていた。今回の不幸な戦争でこのことを自覚している日本人はまだ少数派と思われる。実際2021年1月の原油は1バーレルあたり約50米ドル前後で、2022年4月は約100米ドルで約2倍となっている。円相場は2021年1月の約1.25倍（2022年4月25日現在）である。単純に市場原理に任せていたとしたら、原油の輸入コストは（2×1.25で）約2.5倍となる。必要経費のうち、石油などのエネルギーを使用している企業は死活問題になってくる。石油だけでなく、石炭や天然ガスの高騰も続いている。しかもアメリカのインフレ政策と円安によって、身近な消費財も値上がりを続けている。弱体化しつつあった日本の経済はどこまで持ち堪えることが可能なのかは、今のところだれも予想できないのではないだろうか。ここ20年、大企業や個人の貯蓄はふえていた。資産のある企業及び個人は何年かは大丈夫であろうが、ローンをかかえている人や貧困層と言われている市民にとっては、大変な危機になる。さらに分断化した社会になる可能性が高い。

このような危機に対応できる学力・能力は、まず現状を出来るだけ正しく把握する必要がある。今なぜ「危機」なのかを、今まで小・中・高で学んだ知識を総動員して、そして最近のしっかりとした根拠のある知識を集めて、みんなで知恵を集めて対処しなくてはならないことは、言うまでもない。

このような認識を、子どもを教える我々自身が持たなくては、いつまでも「何のための教育か」という当り前のことが、どこかに置き去りにされてしまう可能性が高い。

「危機」の時に改めて、過去に取得した学歴は当てにならない、そして新しい知識を好奇心を持ち学び続けるかが、いかに重要かが明らかになった。私自身は何か仕事をしようと思ったら、学歴は役に立つことがあるという考えである。しかし過去に取得した学歴（知識など）にこだわり過ぎると、目の前の出来事を判断することが難しくなるのではないか。この「学び続ける」源泉は、自然界や、自分自身も含め人間に、そして社会に関心を持つことであることは言うまでもない。

このような学びや教育は、物やお金や資格（学歴など）を得るために競争させるだけで可能であろうか。カリキュラムテスト通りに授業をする、外発的動機づけの勉強だけでいいのだろうか。危機に対応できる学びは、つながりや連帯感を醸しだす「内発的動機づけの学び」ではないだろうか。外発的動機づけの受験勉強は、合格切符を手に入れる手段とわり切っている親子がいるかもしれない。そういう人達は、かなりの税金を使って作り上げた教科書を、受験が終わったらおしげもなく資源ゴミにしてしまうかもしれない。

内発的動機づけの学びの面白さを少しでも体験していたら、そのような行為が「もったいない」と思うのではないだろうか。この「面白さ」は、単に授業の進め方が「上手」だという意味ではない。教えるだけでなく子どもから考えを引き出すことによって、学ぶ動機づけは高くなり、多くのことに関心が向くようになる。授業の技術が高いからといって、内発的動機づけに結びつくとは限らない。ここが「教える」、何かを「伝える」という難しいところかもしれない。まじめなほとんどの教育関係者は、授業をしてから反省して悩むのではないだろうか。私自身、40年間その連続であった。私の体験授業まで持っていくと、ほぼ新規会員は獲得できた。しかし自分の授業は最高だと思ったことは一度もない。そう思ってしまうと、次の授業を工夫することがおろそかになるからだ。授業の進歩はそこで止まってしまう。

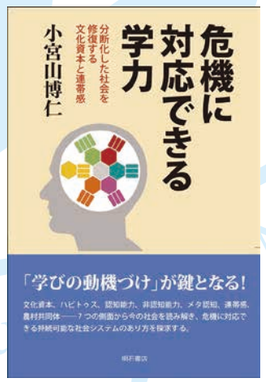
自分の授業を検証する能力は、メタ認知の1つであるが、私も含めて教育者は苦手なような気がする。過度な「外発的動機づけの勉強」は、文化資本（知識としておく）を独占し、共有することにあまり関心がない。分断化した社会を助長する面があるかもしれない。一方「内発的動機づけの学び」は、文化資本の共有化に熱心になるだろう。分断化を修復することが可能となる。

このようなことを4年程前から、放送大学の面接授業で伝えてきた。それを中心にまとめたのが、今回明石書店から上梓した「危機に対応できる学力」である。帯の部分のキャッチコピーを次に示しておく。

＜「学びの動機づけ」が鍵となる！文化資本、ハビトゥス、認知能力、非認知能力、メタ認知、連帯感、農村共同体―7つの側面から今の社会を読み解き、危機に対応できる持続可能な社会システムのあり方を探求する。＞

教育関係者の方に読んでいただければ幸いである。

2022年4月28日　小宮山博仁



（本誌P.14で著書の紹介をしています）

賛助会員紹介

＜東京都千代田区＞

アロー教育総合研究所 ―日本の「学び」をバージョンアップ―

所長　田嶋 裕

「学習塾の英語教育」だからこそ、鍛えられた。

「アロー総研」と申します。メインの事業は大学入試の調査・研究ですが、最近は情報発信にも力を入れていて、週刊ダイヤモンドや東洋経済の教育特集に寄稿するほか、全国の新聞で「大学」に関するさまざまな記事を執筆しています。そして、いま力を入れている事業が「塾大連携」です。高等学校と大学が協力する「高大連携」は各地で展開されていますが、「塾大連携」は発展途上というのが現状でしょう。大学も学習塾・予備校も互いに興味を持ちながら、なぜか手を結ぶことができない。だからこそ、連携がもっと活発になれば、日本の「学び」はもっとバージョンアップする。こう信じて、大学や学習塾・予備校にいろいろ働きかけているところです。

学習塾と言えば、故郷の函館で小学生のころ通っていた英語塾を思い出します。津田塾大学出身の年配の先生は、津田塾らしく厳格な先生で、落ち着きのなかった私はひたすら怒られていました。授業で使うテキストは、山崎貞先生の『新々英文解釈研究』という分厚い古典の名著で、当時の私にとっては退屈の塊。それ以来、すっかり英語嫌いになったわけではなく、大学受験では英語が武器になって私を助けてくれました。高校や大きな予備校が行うカラフルな英語教育ではなく、あの小さな英語塾だけで生き残っていた、セピア色の英語教育で私は鍛えられたわけです。私塾ネットの先生方とお話ししながら、「学習塾の教育」をもっと研究したくなりました。

それにしても、大学と学習塾・予備校は、どうしてこんなにも縁遠いのか。「教育」という共通のワードを持っているのに、お近づきになれない、不思議な間柄になっています。ちなみに、アロー総研に入所する前は、河合塾で小論文の指導をしていました。それでは、受験予備校で働いていると、大学に詳しくなるのか、というと、そうではありません。もちろん、東大や京大、早慶のような受験生に人気の、予備校も合格実績として威張りたくなるような大学の入試には詳しくなります。しかし、中堅・新興大学のことはまるで知りません。

ならば、トップ校ではない大学について詳しいのは誰なのか。それが、アロー総研が籍を置くアローコーポレーション、つまり「大学の広告代理店」なんですね。首都圏・近畿圏には約360校の私立大学がありますが、そのほぼすべての大学にスタッフが出入りしています。無名でも教職員が情熱的な大学、小規模でも特定の分野で圧倒的な実績のある大学、チャレンジ精神が旺盛で急成長を遂げそうな大学、そういった「耳より情報」を所有しているのが広告代理店と言っても過言ではありません（逆に、有名なのに組織が硬直化し、迷走している大学、といった情報も知っています）。手前味噌ですが、こういったことを得意にしている業者も世の中にはありまして、日々の教室運営の中で役立てていただけたら、と思っています。

しめくくりに恐縮ですが、宣伝です。アロー総研では、2022年5月31日（火）。ベルサール秋葉原で『高大接続総会』を開催します。対象は高校教員、学習塾・予備校の先生方で、入場無料。来場者には進学情報誌『大学入試解体新書』をさしあげます。国公私立大学42校が、個別相談ブースを設けるので、このイベントだけで、42大学の情報を入手できます。また、会場内では、さまざまなプレゼンテーションを行います。スペシャルゲストは、小・中学生に人気の教育系YouTuber葉一さん。また、高校の「新指導要領」に関連したプログラムも多数用意しています。

塾大連携で、日本の「学び」をバージョンアップ。ご来場をお待ちしています。

高大接続総会の情報、参加お申し込みは特設サイトで！

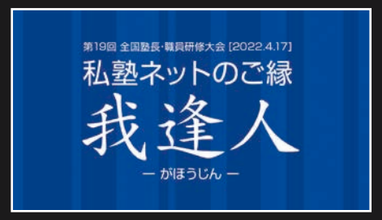
アロー総研 高大接続サイト

https://koudai2020.allow-web.com

第19回 全国塾長・職員研修大会報告

[2022.4.17]

文：私塾ネット副理事　中村直人



薄曇り時折小雨の2022年4月17日（日）午後2時より、大井町のいぶき学院の一室でZOOMによる、全国私塾ネットワーク・第19回全国塾長・職員研修大会が開催されました。長引くコロナ禍のため、今年はZOOMメインで、無料の双方向オンライン研修大会といたしました。今回は「我逢人（がほうじん）」（人と出会うことの尊さ、出会いは人を成長させる種という意味の禅語）をテーマに、私たち私塾ネットのお仲間から、埼玉で非常にユニークな教育を実践されている朝日学習館の梶原賢治先生と四国香川でコロナ下でも元気な小野塾の小野昭先生にご講演をお願いいたしました。当日は、参加人数42名。内訳：会場11名、WEB参加31名でした。

13:30よりZOOM入室許可開始。開始の14:00に、今までの全国研修大会をまとめたオープニングビデオ「我逢人」が流されました。終わったところで私塾ネット理事長の仲野十和田先生が画面に登場し、主催者を代表してのご挨拶をいたしました。本日が理事長最後の仕事となります。理事長任期４年さらに延長２年を務めさせていただきました。私塾ネットは、在京３団体がまとまり、初代理事長山口恭弘先生、二代目谷村志厚先生、三代目鈴木正之先生、四代目湯口兼司先生、どの方も本当に尊敬している方たちであり、その背中を見てずっと私塾ネットの一員としてやってこられたことは、うれしくまた幸せなことと感じております。今回のテーマ「我逢人」ですが、私塾ネットは、まさに会だけでなく他の団体の人や、学校関係の方、企業の方々とかの出会いを得て、自分自身も成長できた会だと思っております。本日の講演者お二人の簡単な紹介と4月14日のセンター会議で新理事長に田中宏道先生が選出されたことを報告して、挨拶を終えられた。

次に、司会のセンター事務局長江広紀先生が登場。資料の確認。本日の御来賓を代表して駒込中学高等学校校長の河合孝允先生に御挨拶をお願いいたしました。

河合孝允 校長

みなさんこんにちは。本来ですと東京女子学園の實吉先生が私学を代表してのご挨拶をなさるところですが、早いものでお亡くなりになってもう２年たちます。今日はご挨拶に代えて、實吉先生とのエピソードをご紹介しておきたいと思います。皆様方とのご関係も新たに再発見していただけるのではないかと思います。實吉先生とは平成７年（1995年）に東京女子学園で有志の勉強の会を立ち上げました。５校ほどオーナーも校長か理事長の方においでいただき始めました。どういう勉強会かというと、「私学と私塾は同じだよね」というところから始まったんですね。要するに私学というのは一つ一つの学校がオリジナリティを持たなきゃ私学じゃないだろう、自分たちの創立理事長たちがどのような思いで自

分の学校を立ち上げたのか、それをまず話し合ってみようということでスタートしたのです。そのうちに人が集まり、声をかけた第一回目市ヶ谷の私学会館では100校以上も集まってしまい、實吉先生が私に「これじゃ、第二協会が出来ちゃうからまずいよ」「解散させてくれよ」と言い、結成大会で解散を宣言するということになってしまいました。また元のメンバーに戻って勉強会を進め、私学も私塾に頼りっぱなしではなく支部ごと私学相談会を立ち上げていきました。今では、5万、10万と集まるように発展してきました。さらに、地域ごとに相談会を開く中で私塾の先生方といろいろなお付き合いがスタートしたという次第です。今の東京私学がつぶれずにあるのは、30年近い私塾の方たちのご支援があって初めて成立していると思っております。心より感謝申し上げます。今時代は、well-beingな学校創造ということで、文科省もこの4月からどの学校も特色を出すように求めてきています。これまで知識だけを与えていればよかった学校が変革を求められています。先進校と変われない学校の二極化している中、駒込が多大な成果を出しているのも塾の先生方のご支援・協力があってこそというのを、駒込が証明していると言えます。今日皆様方とこの会にて、お話が聞けるということを大変楽しみにしております。

田中宏道 新理事長

次に、新理事長田中宏道先生のご挨拶がありました。先生は、全国の模擬授業大会で優勝されるなど教務力指導の長けた方です。また、長年全国塾長・職員研修大会の企画・実行の中心として活躍されてきました。私塾ネットが全国規模の任意団体として、学びを通じて皆さんや他の団体・他分野の人とも繋がれるハブとして盛んにしていこうという抱負を述べられました。先生主催の新しく全国誰でも参加できる学習会の紹介の後、今回選出されました、エリア東北新代表の佐々木康先生、エリア四国新代表の小野昭先生を紹介されました。

ここより、田中先生が研修の司会を務めました。最初の講演者である、朝日学習館の梶原賢治先生の紹介です。梶原先生の塾では、四谷大塚小学生テストで全国1位を10年連続で出しております。しかも、まったく勉強を教え込んだりはしていないのです。塾のモットーは「天に星。地に花。人に愛！その考える力を人のために！」です。

埼玉県川口市で塾を初めて46年超。私塾ネットの前身、日本私塾会・全塾連・PTFや塾教育研究会というところで20～30年勉強させていただいて、30年ほど経った頃、ここで勉強したことを発酵させることで何か面白いことができるのではないかと感じました。そこで出てきたものがパズル教室ですね。1枚の紙の上でのものでなく、むしろペーパーレスで実体というものを大事にしていったら、子供の思考力・発想力、平面図形・空間図形などに豊かな成長ができるのではないかということで、10年ほど前にパズル教室をスタートさせました。その前は小学生・中学生中心に見ていたのですが、30年過ぎたあたりから、もっと小さいお子さんたちが生まれてどういうふうに育って今日にいたっているのか、というのを見てみたいと思うようになりました。そしてだんだん学年が下がっていき、幼児教育をする中で、お受験を担当することになりました。たまたまそのお子さんが全国1位を獲得したことで、その頃から一挙に小さいお子さんが増えるようになりました。そして、私が子供さんたちを担当させていただいて思うところは、「子供というのは多様性のかたまりである。」「何かができる、できないも多様性である。勉強ができる、できないも多様性である。」いわば一つの個性ではないかと思うようになりました。現在ダイバーシティと、多様性を大事にしようと叫ばれている社会の中で、5人10人100人の学習塾というのが、最も子どもの多様性に依存しながら便乗して彼らの良いところを引き出して行けるのではないかと考えています（その後、一つのツールがアナログパズルということで、実際の手作りの立体図形の模型や生徒の作ったパズル・ゲームや実社会の事柄と線対称・点対称等をリンクしたプリントや上級生・下級生二つの無学年のパズル教室の授業風景のビデオを流しました）。

梶原賢治 先生

昔から塾では、生き物・昆虫を飼っているのですが、生き物には人がくっついてくると強く感じるようになったのがこの数年です。ヒマワリの種を植えたものが芽を出すと、それを実際に観察することが子供の興味をかき立てます。生徒が持ってきたカタツムリの幼虫を育てたり、子供たちが餌を工夫してヤゴを育てたり、自発的に喜んでやっています。現在は、アナログパズルの柱と、もう一つの柱：植物・昆虫飼育が塾の中心になっています。それらは、子供たちを楽しませ、お父さんお母さんの関心を引き付ける魅力的なものではないかと思います。学校と塾の2本立てで、ご父兄には原則学校さんでやることは塾ではやりませんと言ってあります。ただし、学校でやっている学年相当の事で問題がある場合は対応させていただきます。

教室では簡単な実験をやるのですが、生というのが一番想像力・好奇心をかき立てるようです。すると、教科書に書いてあることと違うことが出てきます。水は、0℃で凍るとありますが、実際は凍りません。実験したら−15℃で凍りました。また、安いアナログ顕微鏡も子供たちに感動を呼ぶ一つのツールになっています。アスペルガーで不登校のお子さんも昆虫の話をしてみたら突然饒舌に話し出すように、昆虫は人を自然に結びつける力があるようです。将来は「昆虫じいさん」として塾を続けていければと考えております。

二番目の講演者は、四国小野塾の小野昭先生です。開塾26年目で香川に小・中・高の学習塾を5教室運営。家庭教師派遣・そろばん教室・硬筆毛筆教室と多角的に運営なさっています。「子供たちに寄り添い、元気に育ってほしい」というモチベーションで頑張っておられます。

小野昭 先生

本日のテーマは、自塾での活動報告です。何を話すか湯口先生に相談しましたら、春は生徒募集でしょうというアドバイスをいただきました。1つ目のテーマとしては、生徒募集。特に小学生を集める大切さ。2つ目のテーマは、SDGs次の10年を考える。この二つを本日のテーマとします。

まず1つ目ですが、（中1を100としたときに小1から中3までの在校生の比率を黒板に示し、自塾では小学生の割合が比較的多いことを示される。）小学生をかかえると、中学1年生になる時の生徒募集が幾分でも安心ですので、小学生を集めることは大切です。では、自塾に小学生が集まっている理由は何かというと、結論は小学生の授業のメニューの豊富さにあると思います。（この部分は、小野先生のエリア通信に詳しく書かれているので省略いたします。）その点が、募集がスムーズにいっている原因と思います。保護者様から見れば、それぞれ教科により違う塾を選ぶのでは送迎に難があります。その点の便利さをアピールポイントとしています。

あと小学生募集に大切な要素は、2つあります。1つは、講師の大切さです。講師においては2点。1つ目は、子育て経験のあるご年配の女性をパートで積極的に採用すること。2つ目は、夜の中学生を見ている正社員の講師が、いかに夕方の小学生の授業に入り込んでいけるか。小6から新中1になる時に継続していただけるような授業をしていただくためにも、モチベーションとして歩合給の部分を高く取っています。ただ、気をつけることは、講師はいろいろな煩雑な作業、例えば毎月のそろばんの検定などきっちりやることが大切です。そこに問題が起き、一度退塾されると二度と通ってはいただけません。残りの生徒募集2つ目は、チラシをうっているのですが、広く配布する新聞ではなく県の広報を使って塾の近くにDMをかけています。一度、県の広報を扱っている業者と交渉してみたらいかがでしょうか。

塾のSDGsについて。生徒数が激減する10年後に生き残るためには、2つのスリム化が大事。1つ目は社会保険料をどう考えるかです。事前確定届出給与という仕組みを使う。月々のお給料を少なくして、残りを一括で賞与という形で支給すると、厚生年金または健康保険料の削減になるのです。デメリットは年金額が減ることですが、分かって利用する分にはメリットがあります。2つ目の、社会保険料について。退職金の積み立て制度の確定拠出年金（401K）を使うことです。給与からの積み立て部分は福利厚生費として税金がかからない。これも実際の手取りが少なくなるデメリットもありますが、理解して導入するのはメリットがあると考えます。

2つの各講演のあとには、ZOOM参加の方たちは、ブレイクアウトルームに別れ、話し合う。会場は、グループに別れ話し合う。終了後、学校関係の参加者4名のエリアから参加の2名に挨拶を一言いただく。16:12に副会長の鈴木正之先生の感謝の言葉があり、ZOOM上で記念撮影をして、第一部終了しました。

16：15より第二部懇親会を開始しました。司会は、長江先生。埼玉県私塾協同組合の坂田義勝理事長と千葉県学習塾協同組合の鈴木雅規副理事長と全国学習塾協同組合の玉城邦夫副理事長にご挨拶と感想をいただく。

坂田義勝 理事長　鈴木雅規 副理事長　玉城邦夫 副理事長

中国のK先生や千葉のY先生がお残りになった香川の小野先生にさかんに色々と質問をしていました。まさに全国の先生どうしが自由に情報を交換・共有している様子こそ、私塾ネットの象徴的な姿ではないでしょうか。K先生の1歳の赤ちゃんも登場。会場では、アルコールも入り楽しく歓談しました。

17：00の懇親会終了後も、会場のメンバーと大井町に駆けつけてくださった、田中新理事長と仲野先生・梶原先生ほかの皆さんと共に、近くの貸切りの店にて楽しく過ごしました。以上。

寄稿

あなたは利口だと思いますか？これも入試問題です！

近藤 誠介（文化の森スクール・徳島県）

「あなたは、あなたの国に敵対する組織に属したり、敵対する意見を表明したりすることはありますか。」
これは、日本における難民審査で訊かれる質問です。

「日本政府がこのような質問をすることは、難民を保護するという観点から見たときに、どのような問題があると考えられますか。」
これは、今年の麻布中学で出題された社会の問題です。

「あなたは自分を利口だと思いますか？」
「自分の腎臓を売ってもいいでしょうか？」
「もしこの紙を無限回数折りたたむことができるとしたら、何回折れば月に届くでしょうか？」
「木を描くとします。その木は現実のものですか？」
「あなたは脳のどこがいちばん好きですか？」
これらは、オックスフォード大やケンブリッジ大の入試問題です。

フランスの高校では哲学が必修です。バカロレア（大学入学資格試験）では文系理系を問わず哲学の筆記試験が課されます。手元に、それの受験参考書のような「フランスの高校生が学んでいる10人の哲学者」という本があります。プラトン、アリストテレスからヘーゲル、キルケゴール、フロイト、サルトルまでの言説を紹介しています。参考書といっても、読んでいて面白いものです。例えば、スピノザの問題発言「恋愛は外因による喜びである」。モンペリエの同じ下宿にパリとストラスブール出身の学生がいたのですが、彼らがなかなか理屈っぽかったのは、高校でのこういう学習経験があったからかもしれませんね。

では、何故こういう決まった答えのない出題や哲学が必修とされるのでしょう。

「生物はなぜ死ぬのか」生物学者の本です。

「生物の成り立ちは『変化と選択』による進化の賜物です。多様性が重要なのです。当然ですが、子どものほうが親よりも多様性に満ちており、生物界においてより価値がある、つまり生き残る可能性が高い『優秀な』存在なのです。言い換えれば、親は死んで子どもが生き残ったほうが、種を維持する戦略として正しく、生物は多様性重視のコンセプトで生き抜いてきたのです。

―中略―

このような生物の死の意味から考える、ヒトの場合、親や学校なども含めたコミュニティが、子どもに何を教えるべきか自ずと見えてきます。まず、必要最小限の生きていくための知恵と技術を伝えるのは当然です。ここからが重要ですが、次に子どもたちに教えないといけないのは、せっかく有性生殖で作った遺伝的な多様性を損なわない教育です。ヒトの場合には、多様性を「個性」と言い換えてもいいと思います。親や社会は、既存の枠に囚われないようにできるだけ多様な選択肢を与えること、つまりは単一的な尺度で評価をしないことです。」

哲学者の内田樹は教育についてこう語っています。「教育の目的は『有用な知識技術の獲得』と『格付け』だけだと多くの人は信じている。査定が高ければ豊かな資源分配に与り、高い地位につき、高い年収を得て、レベルの高い配偶者を手に入れることができる。査定が低い子どもたちは、その『身の丈』にあったレベルの社会的地位に甘んじなければならない。学校は資源分配のための格付け機関だと、そう信じている人が親たちの八、九割であり、教師たちでも六、七割に達していると思います。」（大学の教育改革をみていると、政府や文科省、経済界もほとんどこのように見ていると思います。）では、内田氏は教育をどのようなものと考えているのでしょう。

学校は、子どもたちの成熟を支援する場です。僕が考える「成熟」というのは、「複雑化」ということです。成熟というのは複雑化することで、昨日とは違う人間になるということです。「士別れて三日なれば、即ち更に刮目して相待すべし」ということでしょうか。人格が多層化し、目の前の出来事を捉えるときの視座が増えると、立体視できるようになる。そうやってしだいに「一筋縄では捉えられない人間」になっていく。それが成熟ということです。「元の自分もそこに残っているが、そこに新たな要素が加筆されたために、人間としての厚みや奥行きが増した。」既成概念を疑う。そのためには、もちろん、考える基本となる知識は必須です。アクティブラーニングでは、多数の課題を読むことから始まります、大人になるということ（自立すること）は、成熟する、つまり複雑になるということです。大人になると選挙権がありますね。

「民主制は合意形成するための技術と器量が要ります。民主制というのは、主権者を成熟させるための制度なのです。民主制以外の制度、王政、貴族制、そして独裁制では、民衆は幼児で無思慮であっても困りません。むしろ、その方が都合いいでしょう。民主制は面倒です。民主制を余り好まない人は、要するに『私は幼児のままでいたい』ということです。成熟して、複雑な問題を扱うような社会的能力を獲得する気がなく、勝ったものが総取りして、トップが全部決めて、対話も合意もなくて、ただ、命令と服従だけのシステムにして欲しい。」

また、内田氏の中にもこういう一節があります。「生物は進化します。進化というのは複雑化するということです。」ここでも複雑化という言葉がでてきます。

やはり、複雑化というのが、人間の本質だと思います。人間の知性は、葛藤―あれこれ考えること―で開発されます。正解を暗記することではなく、吟味することです。ほんとうに使える能力というのは話を簡単にする能力のことではありません。そうではなくて、複数の仮説を並列処理できるだけの「頭の中のスペースの大きさ」のことです。養老孟司先生は、そのことを「頭がいい」ではなく、「頭が大きい」とか「頭が丈夫」というふうに形容しているそうです。問いと答えを暗記しておいて、あらかじめ暗記した答えで問いに即答する能力は、知的能力のうちのほんの一部にしか過ぎません。それで、冒頭に挙げたような入試問題の登場となるのです。

では、複雑化、成熟化するには、何が必要なのでしょう。やはり、「自分の頭で考える」ということなのではないでしょうか。学問の世界で、「科学的に考えるとは、すでに打ち立てられた確実性のなかにいるのではなく、無知の広がりに対する根本的な自覚こそが科学の力の源になり、知っていると思っていた事柄を絶えず疑うことができるようになる。知の探求を養うのは確かさではなく、確かさの根本的な欠如なのだ。」と「ループ量子重力理論」の物理学者カルロ・ロヴェッリは述べています。

養老孟司氏はこんな例をあげています。大学での話です。「コップに水が入っていて、そこにインクを一滴たらすと、しばらくして消えてしまう。どうしてだと思う？」と問うたとき、ある学生から「そういうものだと思っていました。」という答えが返ってきました。これもまた皮肉な言い方をすれば、それが近現代の教育の意図する模範解答だということです。高校のとき、「そこから先は考えなくていい」という答えを、自分なりに発見したのかもしれません。ここには、「考える」が出てきません。

しかし、自分の頭で考えることは、結構面倒くさいことです。例えば、日常的な話ですが、旅行一つをとっても、パック旅行ではついていけばいいだけなのですが、一人で旅するといといろとトラブルがつきまといます。寝坊して名所を見落とすこともありますが、ボチボチ歩くことでしか、出会えないこともたくさんあります。数学も、解法をすぐに見て、覚えて、それでできたことにしてしまったのでは、数学を解いたことにはならないでしょう。また、課題をこなす勉強法は、ある意味楽です。揺れる思考過程が複雑化の要素です。自然の摂理が複雑化・多様化ならば、それだけではバラバラになり、人類は生き残れません。人類はそこで「共感する力」が不可避です。人類はサバンナに降り立ったときから、いっしょになって生き残ってきました。

ある小児科医の話です。彼の恩師が、「子どもの死を悟ると，みんな天使のようになる。切ないね。」このとき私は，「死を現実のものとして受け入れた瞬間に、心の奥底から沸々と『共感する力』が沸いてくるのではないか」と思いました。「共感する力」はもう人類の本質と言わざるを得ません。

さて、現状の教育環境はどうでしょうか。教育改革では「思考・判断・表現」が大事であるとされていますが、共通テストは、判断力というよりは単に要領の良さを問うているとしかみえません。「論理国語」「文学国語」と分ける、という発想も単純化です。そして、大学教育においては「PDCAサイクルを回す」とか「質保証」とか、製造業で使われる用語が、ある時期から定型句になっています。これは多様化、複雑化というより単純化、効率化です。「複雑化」を支援することが教育であるはずですが。

この単純化・効率化という観点からすると、早期教育もそうなのかもしれません。前述の小児科医がこうも言っています。「大前提として、何かを早くできるようになることと、そうして習得したことが将来もっとできるようになることとは無関係です。」納得です。

教育において、「ああすればこうなる」という方程式で括れるような正しい育児法はありません。脳科学において、心理学者のリサ・フェルドマン・パレットは、「感情の動きを丁寧に調べていくと、脳で起きる生理反応は結局、バラバラで特定の反応は認められなかった」と書いています。研究が進めば進むほど、わからないことが増えていくようです。本当に、子育てとか教育というものは手間暇のかかるものです。しかし、この多様性、複雑であることこそが、人を前に向かって進ませているのかもしれません。ますます、一つの答えでない時代になっています。こんなときだから、この本質に向き合う教育が何よりも重要なのです。

引用参考文献：
『生物はなぜ死ぬのか』小林武彦著
『複雑化の教育論』内田樹著
『子どもが心配』養老孟司著
『カルロ・ロヴェッリの科学とは何か』カルロ・ロヴェッリ 等

エリア報告 北から南まで

報告　柿崎 純（個別指導Axis観光通り校・青森県）

個別指導Axis観光通り校の柿崎です。今回は視点を変えて、東北地方の公立高校倍率と2022年度青森県立高校入試全体の所感を書こうと思います。

1）東北地方主要公立高校志願倍率推移

2020年度から2022年度までの東北地方にある主要公立高校の志願倍率を表にまとめてみました。ここでは各県の公立上位校と呼ばれているものを取り上げています。

高校名	2020年度	2021年度	2022年度
青森	1.10	1.20	1.19
八戸	1.12	1.07	1.21
弘前	1.28	1.28	1.30
盛岡第一	1.17	1.13	1.31
盛岡第三	1.38	1.17	1.33
秋田	1.11	1.18	1.18
秋田南	1.30	0.97	1.21
仙台第二	1.13	1.26	1.14
仙台第一	1.43	1.43	1.45
山形東（普通）	0.41	0.42	0.41
山形東（探究）	2.49	2.45	2.54
米沢興譲館（普通）	0.82	0.88	0.68
米沢興譲館（探究）	1.50	1.60	1.79
県立福島	1.24	1.43	1.17
安積	1.28	1.00	1.23

※各県の教育委員会のホームページを基に筆者が作成。
※各県で呼称は異なるが、一般入試の倍率を提示。

各県において特有の事情がありますが、本表で挙げている高校の志願倍率は1.00倍以上となっています。それなりの競争率があると言えましょう。また、揺り戻し現象がある程度見ることができますから、翌年の入試倍率を予測することが比較的しやすいとも言えましょう。

2）高倍率の「探究科」

「1」の表の中で注目したいこととして、山形県内高校の「探究科」の倍率が「普通科」の倍率よりも相当高くなっていることが挙げられます。「探究科」とは、「各教科で学んだ基礎的な知識・技能を活用し、自ら見つけた課題の解決に向けて主体的・協働的に取り組む『探究型学習』に重点を置く学科」とのことです。山形県は2018年度(平成30年度)にこの学科を設置しました。「探究科」設置の狙いとして、「やまがた創生やグローバル課題の解決などに果敢に挑戦する心を育てること」、「社会の変化に柔軟に対応できる思考力・判断力・表現力を育てること」、「大学入試制度改革に対応し、高い進路目標を達成できる学力を育てること」の3点を挙げています。このような狙いのもとで設置された探究科ですが、この中でも山形東高校の探究科は、2021年度入試時に東京大学の学校推薦型選抜に初めて挑んだところ、3名の合格者を輩出しました。このことは報道番組やビジネス誌で注目されていることから、既知の方がいらっしゃると思います。

前述のように、開設当初から高倍率になっている探究科ですが、高倍率の理由として、従来の授業形式を保ちながらも生徒自身が積極的に学習できるようにするべく、学校全体が一つとなって生徒を支援し続けてきている姿勢を示していることが考えられます。しかも、その姿勢は言葉だけでなく実行を伴っていることから、大学入試において相応の成果を出しているとも言えます。したがって、山形県内の高校における探究科人気は当分続くと思われます。なお、山形県内の学習塾の合格実績も、探究科を強調していることを付記しておきます。

3）2022年度青森県立高校入試への所感

2022年3月8日(火)に、青森県立高校入試が行われました。コロナ禍初であった2021年度入試では、学習の遅れ等への配慮による基礎基本を重視した問題が数多く出題されました。この傾向はコロナ禍2度目となった2022年度入試も続くと思われましたが、むしろ、コロナ禍前の水準の難易度に戻した問題が出題されたというのが個人としての感想です。教科書改訂最初の入試だったこともあり、新しい学習内容が数多く出題されると思われましたが、各科目1、2題の出題に留まりました。個人的に印象に残っている問題として、英語「wish+仮定法過去」の作文が挙げられますが、基本事項を問うものでした。新しい学習内容の理解度について問う場合、基本的な内容に留めていたのがほとんどではないでしょうか。むしろ、応用問題は従前から学習している内容を踏まえたものが多かったと言えます。

もう一つ、大事な出来事がありました。それは、一部の科目において解答用紙のレイアウトが変更となったことです。変更内容は次の通りです。

1:全科目に小問記入欄が設けられたこと
2:数学、理科、社会の解答欄の段組みが1段から2段に変わったこと

この変更に先駆けて、青森県私立高校入試の数学、理科、社会の解答欄の段組みも変更となりました。長らく青森県外で受験指導を行っていた当方には、このような新しい解答欄に何度も遭遇しているので、レイアウトの変更にについて深く考えていませんでした。しかしながら、受験生にはそれなりに衝撃があったようです。レイアウトの変更は、他県における採点間違いを根底にして、その間違いを最小に抑えるようにすべく行われたと思われます。

何より傾向に左右されることのないよう、基礎基本を重視しつつ応用発展問題にも対応できる学力をつけてもらうよう、面談や学習指導を進めるのが大切であると改めて確認した次第です。

報告　長原 糸惠（のびのび学習教室・東京都）

▶今の私になるまで。

22歳で結婚をし、1987年までコンビニエンスストアを夫婦で切り盛りしていました。まだセブンイレブンなどができる前です。先進的な、コンビニは大繁盛でした。年商は、何億にもなった年もありました。朝8時から夜9時までフル活動です。

今では珍しくありませんが、商品説明を書いたPOP。その頃の多くのお店は、価格しか書いてありませんでした。私は違うのです。オーと分かるように、買いたくなるように価格に添えて書きました。丈の長いベストが欲しいという声を聞いたら毛糸で編み販売するのです。

色々なところから取材が来ました。TBSラジオ「どくまむし三太夫」が来店したこともあります。商売は順調でしたが、やがて大手のスーパーやコンビニが台頭し売り上げが落ち始めました。もう我々の商売が求められる時代ではないと。

そのころ夫が練馬区のキャッチボール（小学生の女子対象）のコーチをしていました。メンバーの母子家庭の子供3人の勉強をボランティアで見ていたところ、ひとり二人と生徒が増えてきました。店の奥の6畳の部屋で正座をして勉強する子供たち、まさに寺子屋です。どんどん申し込みが増えてきて、よっし！お店を閉めよう！店を改造して教室にしました。

私は、七変化できます。10歳の子供になったり、13歳になったり。子供と同じ気持ちで指導をしました。子供たちと一緒に原宿へ、下北沢へ、たくさん遊びました。損得を超えて楽しい毎日。これが私の天職だ！と確信しました。「手をかけず、目をかける。やったあ！の喜びを」これが私の指導方針です。

国語指導が一番大切と気が付いた時、私塾ネットさんの国語研修に参加させていただきました。研修会に参加しているだけではだめだと気付き、私塾ネットさんに加盟させていただきました。そして現在に至っています。

若い息子と同世代の先生方から目いっぱい吸収しようと今、張り切っております。私から吸収されても大丈夫なように若い先生方、新しい知識を蓄えてください。よろしくお願いいたします。

今月119歳で亡くなられたおばあちゃまがいらっしゃいます。私も現役で119歳まで指導がしたいです。

新連載 Vol.4 講師のための英文法

Grammar for English Language Teachers

近藤 誠介（文化の森スクール・徳島）

不定詞

不定詞の不定とはどういう意味でしょう？

英語は本来、屈折語であるということを思い出していただきたい。動詞の形は主語と時制によって決定される、つまり定まるのです。ところが、不定詞は主語の人称とか時制に関係なく同じ形であり、つまり定まっていないので不定ということになります。不定詞には、to不定詞と原形不定詞がありますが、元々は原形を指します。

例）古英語の動詞 singan （スィンガン）歌う　の活用

不定詞		singan
直説法		現在
単数	1人称	singe
	2人称	singst
	3人称	singb （スィングす）
複数		singab （スィングす）　…etc

（ þ という字は現在使われていません。3単現の s です。）

そして、不定詞とは「動詞でありながら名詞的性質をあわせもつ、動詞の観念を表す形」です。また現在の助動詞の will は古英語の動詞「…を望む」という意味の willan に由来します。また can は cunnan（知っている）という動詞です。不定詞は名詞的なはたらきをするものですから、他動詞の目的語にもなります。動詞 cunnan+目的語としての不定詞、動詞+不定詞などが時を経て、現在の助動詞+原形不定詞になりました。

動詞+不定詞（原形）を使う形はフランス語やスペイン語でもあります。
（仏）Je veux aller ǎ Marseille.（I want to go to Marseille.）

・では、to 不定詞とは？

古英語では、前置詞 to（トー）は名詞、代名詞として不定詞を従えました。toは方向を表しますので、to　secgenne（トー・セジェンネ）、secgenne 動詞「言う（こと）」にtoがついて「言う（べき）方向」という意味になります。このように、to不定詞には元々「～する方向に」という未来志向があるのです。中英語の時代になって動詞の屈折語尾が消えていきました。3単現は別にして、不定詞が現在形と同じ形になり区別できなくなると、to do のようにtoを伴う形の方が明確であり、to不定詞が一般的になりました。その結果、現在では不定詞といえば「to不定詞」を指すようになったのです。

ただ、現在でも名詞的な意味を残しているものもあります。
All you have to do is do….

おまけ

□名詞的用法
名詞句であるから、主語・補語・目的語として用いられる。

□形容詞的用法
・先行詞が to 不定詞の主語
There' s a lot of work to be done.
・先行詞が to 不定詞の目的語
Would you like something to drink?
・to 不定詞に含まれる前置詞の目的語
Marry needs a friend to play with.
・to 不定詞が関係副詞節のとき
the time to go ／ at which to go ／ the way to do it ／ in which to do it
・to 不定詞先行詞と同格に働く
I have no occasion to speak French.

「～べき」「～ための」と訳すより、動詞の「連体形」につけるとよい。「読む本」

□副詞的用法
〈方向〉〈目的〉〈結果〉〈原因〉〈判断の根拠〉〈範囲指定、…する点で〉

・have O do ≠ get O to do
have O do が使役のときは、自分より社会的立場が同等、もしくは以下または業者などに自動的に当然～してもらう。
get O do は頼んで（説得して）～してもらう。

なお、この講義は直接生徒に指導するのではなく講師の英文法の背景トリビアとして参照いただければ幸いです。

私塾ネット以外の学習塾団体イベントにも参加できます！

学習塾団体合同会議とは：「社会のために、必要なことを、必要な人に提供する」

〔加盟団体〕公益社団法人全国学習塾協会、全国学習塾協同組合、NPO 法人学習塾全国連合協議会、私塾協同組合連合会、東京私塾協同組合、埼玉県私塾協同組合、茨城県学習塾協同組合、神奈川県私塾協同組合、千葉学習塾協同組合、全日本私塾教育ネットワーク

学習塾に通う子どもたちの未来、業界の健全な発展のために

学習塾団体合同会議

検索！

学習塾団体合同会議

https://godokaigi.com

小宮山博仁先生の新著「危機に対応できる学力」の紹介

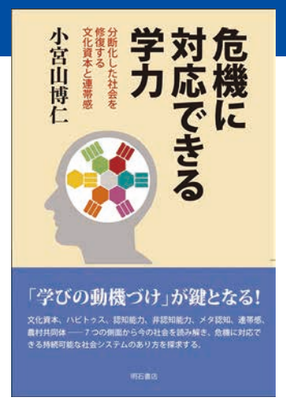
2022年2月明石書店より発刊、私塾ネット会員の小宮山博仁先生の著書

危機に対応できる学力

ー分断化した社会を修復する文化資本と連帯感ー

第1章　教育と経済をめぐる社会的背景 ー閉塞感漂う平成から危機の令和へー
第2章　危機で求められる能力とは
第3章　内発的動機づけの学びと連帯感
第4章　格差ある分断化した社会
第5章　メタ認知と連帯感
第6章　危機に対応できる社会システム

amazon



7つのキーワード、1.文化資本 2.ハビトゥス 3.認知能力 4.非認知能力 5.メタ認知 6.連帯感 7.農村共同体 をしっかりした定義のもと縦横に論を進めていらっしゃいます。教育学のみならず、経済学・社会科学・民俗学等の論文よりエビデンスをもとに論考されており、問題点の指摘だけでなく問題点の解決への提言もされております。ぜひ、皆さまにもご一読をお薦めいたします。今回、明石書店様のご厚意により先生のご著書を3冊までいただけることになりました。ご希望の会員の方は、私塾ネットセンター広報中村までメール（center-pr@shijuku.net）にて、著書希望のご連絡をお願いいたします。

私塾ねっと誌上句会「春夏秋冬」

再開第四回（谷村選＆評）

春風に風船とられ泣く子かな
暖かな石にすわりてむすび食う　長江勝秋（神奈川県）

「春風に風船とられ」の表現が面白い。そしてその風船を目で追って泣く幼子の様がなんともほほえましい。平和な春の公園での風景か。

春デジャヴュ今この宵の懐かしく
羊の毛刈るショー見んと雨の牧　中村直人（神奈川県）

「デジャヴュ」日本語でいえば「既視感」、誰しも経験のある感覚だ。小生は夏の夕方波止場に立つと、瀬戸内で育った子供のころの夏休みの一景に重なる。

行く春や　会食止まり　妻の愚痴
程々の歯応へをかしわらび餅　木内恭裕（徳島県）

わらび餅の原材料はその名の通りわらびの根のでんぷん質らしいのだが、いまだに納得がいかない。山菜のわらびとあのグミ感がどうにもつながらないのだ。「程々の歯応え」は、納得のいかぬ感触を説明して妙。行く春の句、他人事ではなく我が身につまされて講評できず。

全身を緑に染めて竹の葉湯
紅白の胡蝶群れたり花水木　谷村志厚（千葉県）

スーパー銭湯の露天風呂で竹の葉湯なるものを体験した。竹の若葉のエキスを抽出したという真緑の湯に身を染め、香しい竹の香に包まれ、初夏の風情を堪能した。

編集部からお願い

次号は7月発行の夏号です。投句はお一人3句まで夏の季語でお願いします。
投稿は、谷村までメールでお送りください。
締切は6月末日です、ふるってご投稿ください。
●メール：t-shiko.1949@aim-net.co.jp

私塾ネットセンター 事務局通信

事務局長　長江 広紀（英数学院・神奈川）

会員・名誉会員の皆様、賛助会員の皆様、他団体の皆様、お世話様です！　会費徴収の任にあたる会計部の皆様、執筆にあたる広報部をはじめとする皆様、研修部の皆様、ご苦労様です！　広報発送作業に従事される先生方いつもありがとうございます！　また今号から、発送作業及び広報編集委員会を東京品川区のいぶき学院で行うことになりました。これまで塾舎をお借りしていた谷村先生、ありがとうございました！これからお世話になる鈴木先生、ありがとうございます！

令和４年４月14日、ZOOMにて第31回代表者会議が行われましたのでご報告させて頂きます。執行役員16名中参加12名（小野、佐々木、鈴木（正）、田中、仲野、中村（直）、長江、西本、湯口、渡辺）委任状２名（川久保、寺嶋）、計14名（五十音順　敬称略）出席により過半数を超え定足数を満たしました（幹事　梶原先生、加藤先生も出席）。理事長挨拶の後、仲野理事長より令和３年度決算報告及び令和４年度予算の説明がありました（第１号議案）。続いて私より令和３年度事業報告並びに令和４年度事業予定（第２号議案）を報告いたしました。次に第３号議案（理事長改選の件）では田中宏道先生が理事長として選出されました。また引き続き私が事務局長の任命を受けました。第４号議案では、田中新理事長より令和４年度事業計画の説明がありました。センター主催でのオンライン研修会の提案もありました。第５号議案エリア報告では、佐々木康新東北代表、小野昭新四国代表の紹介を含めた各代表の挨拶がありました。いずれも全会一致で承認されました。

会議終了後は、参加者より近況報告を一言ずつ頂きました。私塾ネットは田中新体制となりました。昨年に引き続き事務局の仕事に従事してまいります。1年やってみて、いかに自分が抜けている人間か再確認いたしましたので（笑）、今後とも皆様からのサポートを頂けると幸いです。エリア関東の総務部も兼任ですが、渡辺代表からは至らないところを助けて頂いているので、引き続き二刀流で頑張ります！

編集後記

広報部長：中村 直人

今回第77号の賛助会員のコーナーでは、5月31日に秋葉原での大規模なイベントがありますアロー教育総合研究所様の記事が告知も兼ねてのタイミングの良い内容となりました。紙面の都合上、今回掲載予定の学校記事は次号に。また紹介いたしました、小宮山博仁先生の本の希望申し込みもよろしくお願いいたします。先着順となります。メーリングリストの整備の件は、センターの会議でも各エリアで取りまとめたものをセンターに送っていただくことになり、よりスムーズな連絡ができるようになると思います。さて相変わらず、エリア報告の書き手が少ないです。エリア代表から頼まれたらご自分の勉強と思って依頼を受けてください。まだお書きになっていない方、女性会員のお声を広く載せたいと思います。

表紙の花 こ・と・ば

デイジー

（キク科ヒナギク属・地中海沿岸原産）

和名の雛菊は小さくて可愛らしい菊なので「雛」の冠がついたもの。開花期が12月から5月までと長いので、「延命菊」「長命菊」とも呼ばれる。原産地では多年草とされているが、日本では夏の暑さに耐えられず枯死してしまうので、一年草に分類される。日本での花言葉は「美人」「純潔」「希望」「平和」とまことに穏やかで幸ある言葉が並ぶ。いずれもこの花の可憐さからイメージされるものであろう◆俳句では春の季語に置かれるが、本来の「菊」は代表的な秋の季語で関連語も多い。高浜虚子の句に「踏みて直ぐデイジーの花起き上がる」があるところをみると、百年以前にはすでに庭先に植えられるような、鑑賞花として親しまれていたのであろう◆ところでデイジー（daisy）の語源は「day's eye」なのだそうだ。「日の目」をみると言う慣用句があるが、まさかこの花が語源ではあるまい。日の光を浴びて黄色い花芯が輝く様から命名されたのではないだろうか。いずれにしろ「希望」と「平和」を象徴する花ではある。（志厚）